

平安京右京七条一坊九町跡

2006年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京七条一坊九町跡

2006年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生きています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じ広く公開することで、市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用を図っていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ規模の違いはありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたびビル新築工事に伴う平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます。

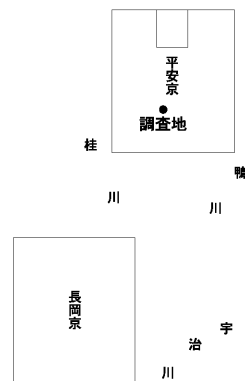
平成18年4月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京七条一坊九町跡
- 2 調査所在地 京都市下京区中堂寺粟田町93・94
- 3 委 託 者 株式会社アーバネックス開発 代表取締役 杉山好一
- 4 調査期間 2006年2月1日～2006年2月24日
- 5 調査面積 200m²
- 6 調査担当者 平尾政幸
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「島原」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡測量基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 通し番号を付した。
- 14 掲載写真 村井伸也 幸明綾子
- 15 遺物復元 出水みゆき・村上勉
- 16 基準点測量 宮原健吾
- 17 本書作成 平尾政幸
- 18 編集・調整 児玉光世
- 19 本書は、2001年度から発刊してきた『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』を、今年度より書名変更したものである。



（調査地点図）

目 次

1. 調査経過	1
2. 遺 構	2
3. 遺 物	5
4. ま と め	6

図 版 目 次

図版 1	遺 構	1	調査区全景（西から）
		2	SX06瓦散布状況（南西から）

挿 図 目 次

図 1	調査位置図（1：2,500）	1
図 2	調査前全景（東から）	2
図 3	調査風景（西から）	2
図 4	SD02断面図（1：50）	2
図 5	西壁断面図（1：50）	3
図 6	調査区平面図（1：100）	4
図 7	文字瓦拓影（1：4）	5
図 8	軒丸瓦拓影・実測図（1：4）	5
図 9	周辺の調査地と今回の調査地	6

表 目 次

表 1	遺構概要表	2
表 2	遺物概要表	5
表 3	周辺の調査一覧表	6

平安京右京七条一坊九町跡

1. 調査経過

調査対象地は大阪ガス京都工場跡地の南端付近に位置する。平安京の条坊では右京七条一坊九町の北部とその北を東西に通る六条大路の一部に該当するが、対象地の北側には、西に移設されているものと同様のガスタンクがかつて存在し、その基礎跡によって地下遺構が広範に破壊されていることが予想された。そこで対象地南部に範囲を限定し、京都市埋蔵文化財調査センターが4箇所の小トレンチを設け試掘調査を実施した。試掘調査の結果、対象地南部にも旧建物の基礎跡や多数の埋設管が確認されたが、南東部の試掘調査区で、六条大路南側溝推定位置付近に溝の堆積土の可能性がある粘質土が確認された。そのため、この試掘調査区を含む東西20、南北10の発掘調査区を設定し、六条大路関連の遺構の検出を主眼に発掘調査を実施することとなった。

調査の結果、六条大路南側溝の推定位置には近代の東西方向の溝が検出され、南側溝はこの溝により消滅していることを確認したが、調査区北西部の一部で六条大路路面と思われる整地層などを検出した。

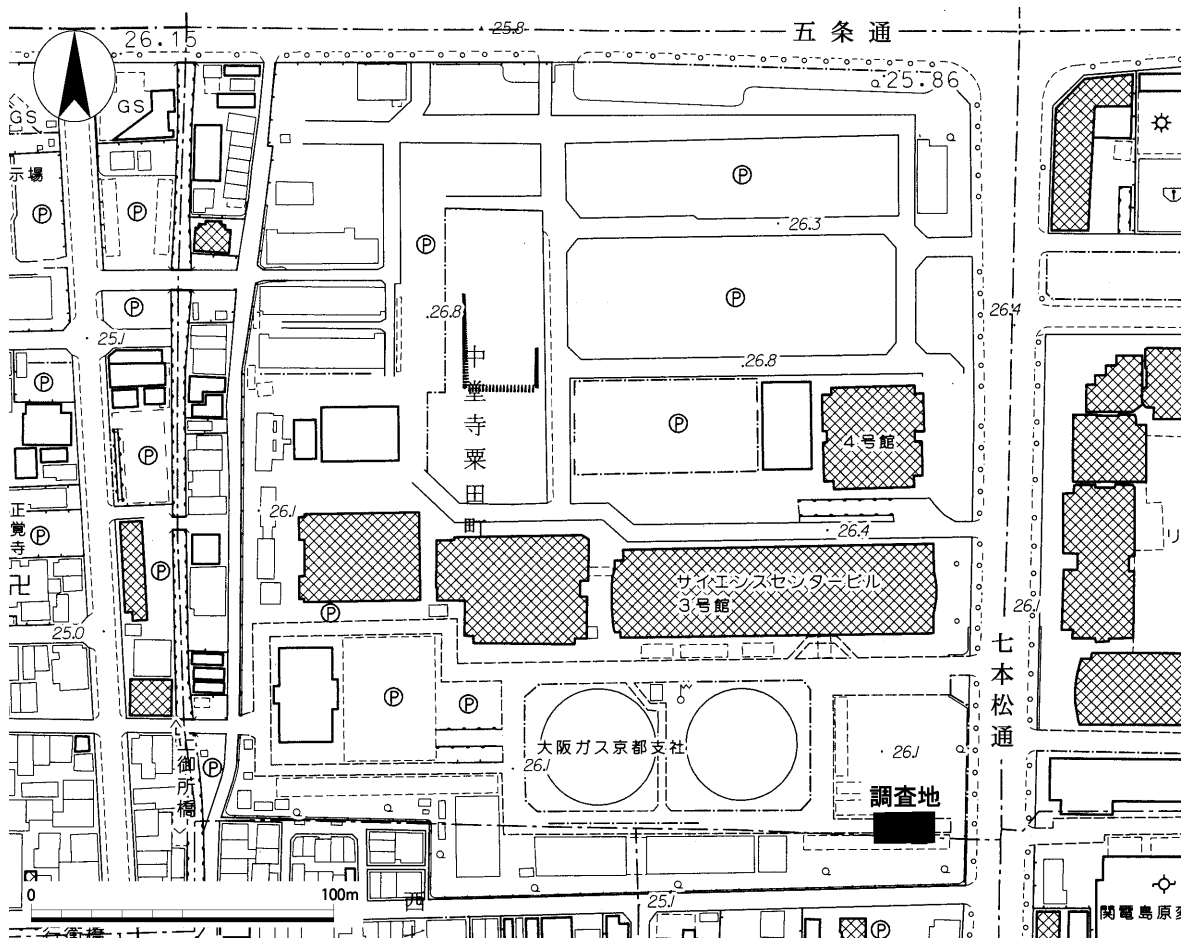


図1 調査位置図(1:2,500)



図2 調査前全景（東から）



図3 調査風景（西から）

2. 遺 構

調査区のほぼ全域が、表土下約1.2～1.3 まで大阪ガスおよびその前身の京都瓦斯関連の建物基礎や埋設管掘形による削平を受けており、遺構の残存状況は極めて良くなかった。想定されていた六条大路関連の遺構も、南側溝に該当する位置に近代の東西溝SD02が開削されていたことや、さらにその北側には、この溝に流れ込むような湿地状の堆積（SX06）があり、路面の状況も不明瞭であった。ただ、調査区北西部の一部で小礫を含んだ硬く締まった面を検出しており、これが一時期の六条大路路面（SF05）の整地かと思われる。この整地層からは小片のため厳密には時期を決めたいが、鎌倉時代から室町時代に属する瓦器鍋が出土しており、路面は平安時代に遡る

ものではなく中世以降のものであることがわかる。

SD02の北側の湿地からは平安時代の瓦が多数出土したが、この遺構に伴うものではなく、湿地状にぬかるんだ地形を整地するために周辺に散布していた瓦片が利用されたものとみられる。

表1 遺構概要表

時代	遺 構	備 考
鎌倉時代 ～室町時代	六条大路路面SF05 SK03	一部のみ残存
近 代	土壌SK01 SK04 溝SD02 湿地SX06	瓦を多量に含む

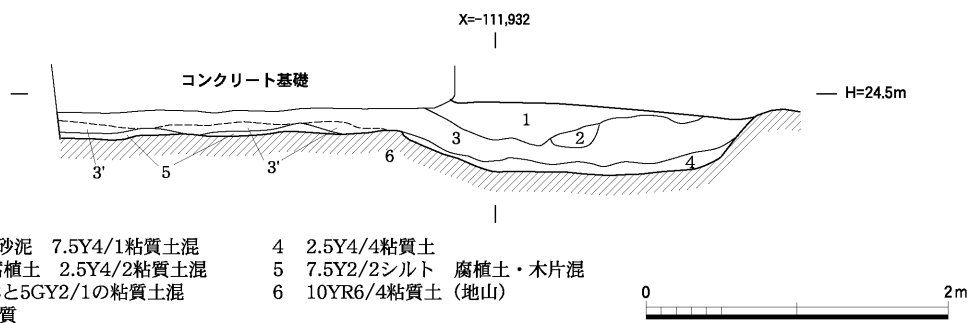
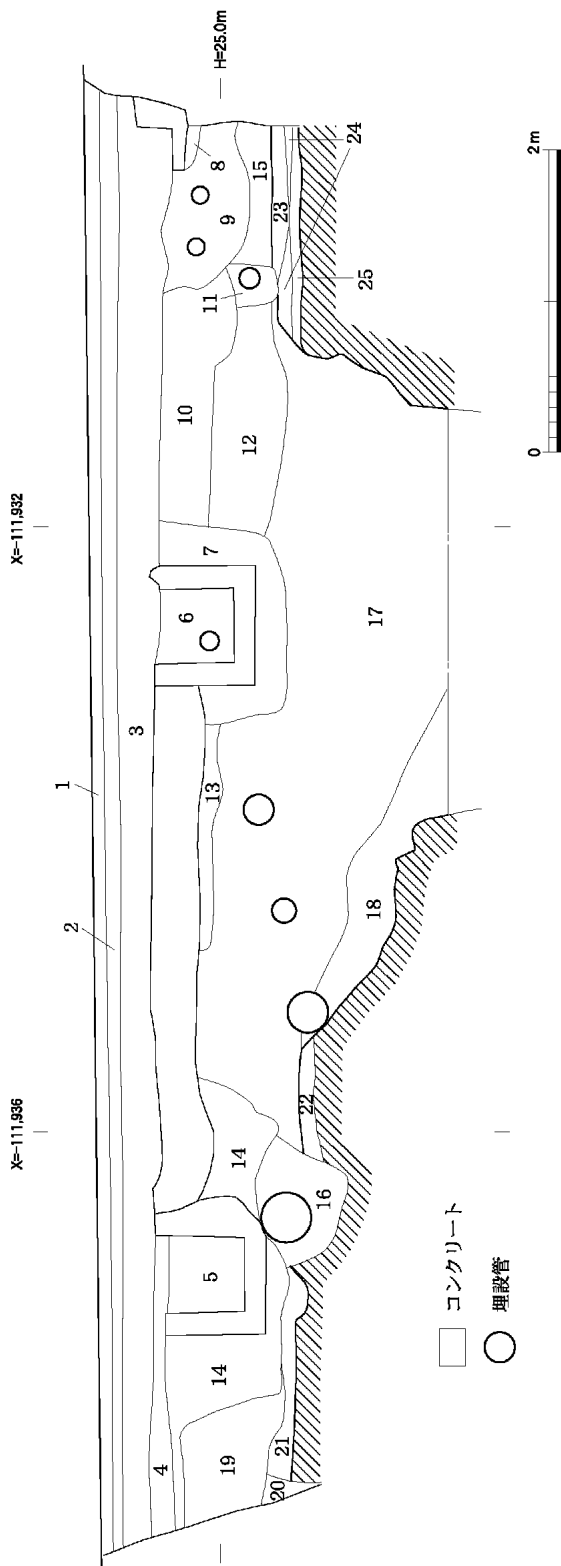


図4 SD02断面図（1：50）



- | | | | |
|----|--------------------------------|----|--------------------------------|
| 1 | アスファルト | 14 | 2.5Y5/4 黄褐色砂泥 |
| 2 | 砕石 | 15 | 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂泥 |
| 3 | 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 (整地層) | 16 | 7.5GY 灰色粘質土 |
| 4 | 砕石 | 17 | 10YR1.7/1 黒色粘質土+2.5Y5/3 黄灰色粘質土 |
| 5 | 2.5Y5/4 黄褐色砂泥 | 18 | 2.5Y4/2 暗灰黄色砂礫 |
| 6 | 2.5Y5/4 黄褐色砂泥 | 19 | 2.5Y4/1 黄褐色泥砂 |
| 7 | 2.5Y4/1 黄灰色砂泥 | 20 | 5Y4/1 灰色砂泥 |
| 8 | 砕石 | 21 | 5Y4/1 灰色シルト |
| 9 | 10YR4/6 褐色泥砂 | 22 | 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 |
| 10 | 7.5Y2/1 黒色泥砂 石炭ガラ混 | 23 | 2.5Y3/3 オリーブ黒色泥砂 |
| 11 | 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥 | 24 | 2.5Y5/2 暗灰黄色泥砂 |
| 12 | 2.5Y4/1 黄灰色粘質土+5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 | 25 | 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂泥 礫混 (路面) |
| 13 | 5Y4/1 灰色砂泥 | | |

図5 西隣断面図(1:50)



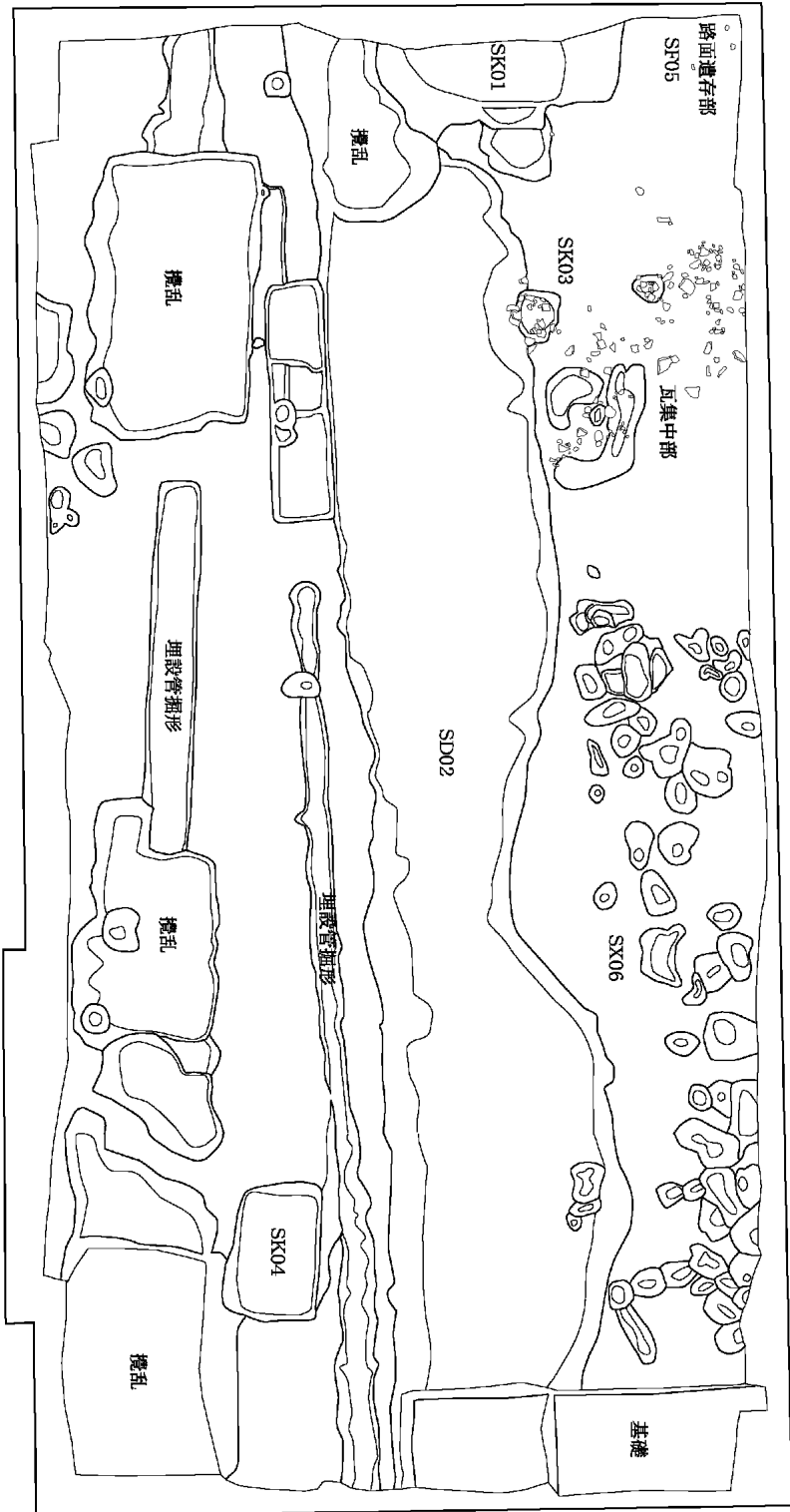
Y=22,584

Y=22,580

Y=22,576

Y=22,572

Y=22,568



X=111,936

X=111,932



6 区平面図 (1:100)

3. 遺物

遺物の大半がSX06およびSD02から出土した瓦類で土器・陶磁器類はわずかである。瓦類の大半は平瓦・丸瓦だが、軒丸瓦と文字瓦が1点ずつある。

軒丸瓦(1)は複弁4葉の蓮華文で、間弁は撥形を呈する。中房は盛り上がり、弁端に対応して内側に突出する圏線が巡る。蓮子は1+4。外区の朱文は粗い。瓦当裏面に布目を残す。一本造り技法。平安宮内裏や広隆寺に類例がある。

文字瓦(2)は平瓦の凹面に「木工」銘の刻印が施されたもの。

土器類には土師器、須恵器、瓦器、陶磁器類があるが、すべて小片で、形状の判明するものは皆無である。

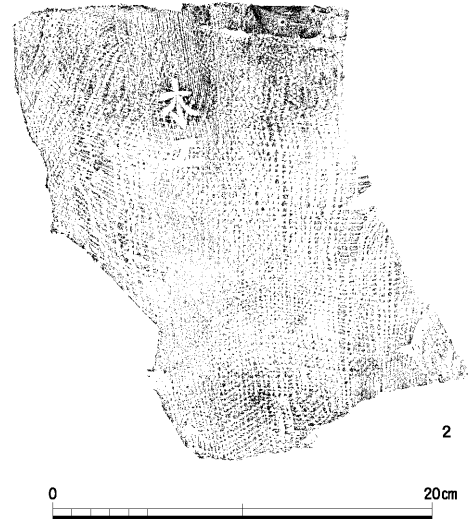


図7 文字瓦拓影(1:4)

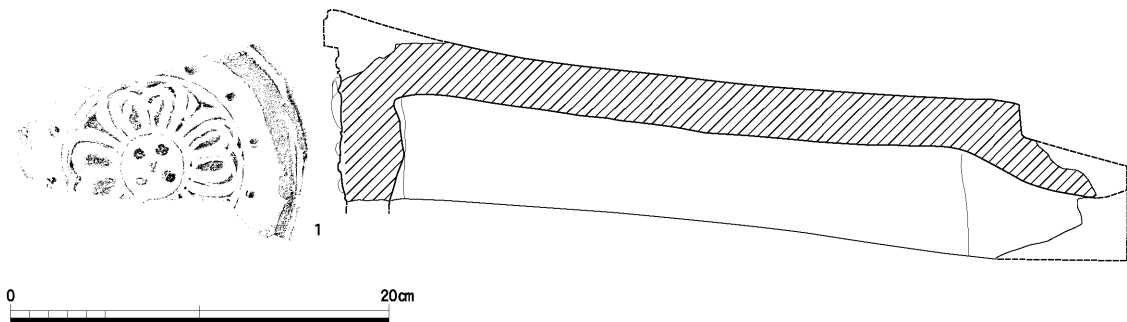


図8 軒丸瓦拓影・実測図(1:4)

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	土師器、平瓦、丸瓦、軒丸瓦	11箱	軒丸瓦1点、文字瓦1点	1箱	10箱
鎌倉～室町時代	土師器、瓦器			0箱	
近世～近代	施釉陶器、磁器			0箱	
合計		12箱	2点(1箱)	1箱	10箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

4.まとめ

冒頭にも触れたとおり、今回の調査区は六条大路および右京七条一坊九町の北部に該当する。調査区の北側に当たる右京六条一坊三町・四町・五町・六町・十一町・十二町・十三町・十四町では、これまでに多数の発掘調査が実施されており、平安時代前期の条坊遺構や建物、井戸、溝など邸宅に伴う多くの遺構が検出されている。大阪ガス旧京都工場跡地での調査としては第20次にあたる今回の調査では試掘調査の結果から、六条大路の遺構の検出を主目的にしたが、大阪ガス旧京都工場やその前身である京都瓦斯関連の建物基礎や埋設管掘形などのため遺構の残存状況は悪く、中世の路面の一部を検出するに留まった、しかし、後世の遺構からではあるが、平安時代の瓦類が多く出土した。それらが付近の邸宅などで使用されていたものである可能性は高く、周辺に瓦を使用した建物が存在していたことがうかがえる。

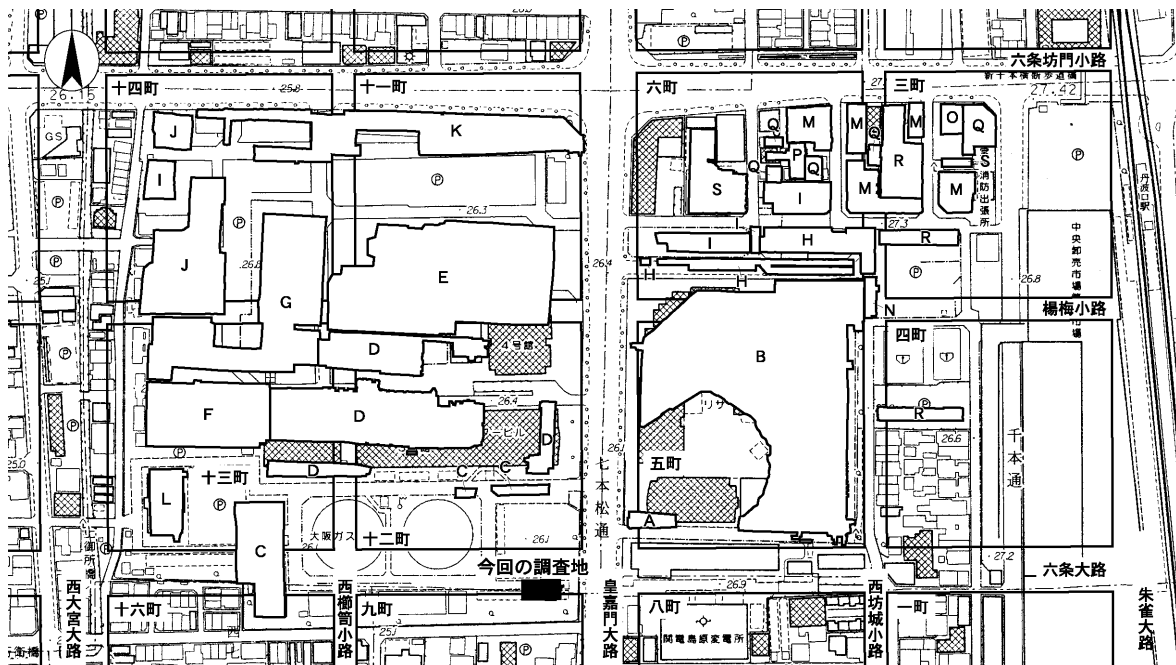


図9 周辺の調査地と今回の調査地

表3 周辺の調査一覧表

調査回数	調査年次	主要遺構	調査回数	調査年次	主要遺構	
A	試掘	1987	K	11次	1995	建物、井戸、川
B	1・2次	1988	L	12次	1996	建物、溝、池
C	3次	1989	M	13次	1997	西坊城小路西側溝、柵、井戸、池
D	4次	1990	N	14次	1998	西坊城小路西側溝、井戸
E	5次	1991	O	15次	1999	井戸
F	6次	1992	P	16次	1999	
G	7次	1993	Q	17次	2000	西坊城小路西側溝、路面、御土居濠
H	8次	1994	R	18次	2000	西坊城小路東側溝
I	9次	1994	S	19次	2001	建物(御堂)、溝、川
J	10次	1995				

圖 版

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうしちじょういちぼうきゅうちょうあと							
書名	平安京右京七条一坊九町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2005-12							
編集者名	平尾政幸							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2006年4月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょう 平安京 うきょうしちじょういちぼう 右京七条一坊 きゅうちょうあと 九町跡	きょうとししもぎょうく 京都市下京区 ちゅうどうじあわたちょう 中堂寺粟田町 93・94	26100		34度 59分 26秒	135度 45分 10秒	2006年2月 1日～2006 年2月24日	200m ²	ビル新築 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京 右京七条一坊 九町跡	都城跡	平安時代		平瓦、丸瓦、軒丸瓦、 文字瓦		六条大路路面の一部（中世）を検出		
		鎌倉時代		土師器、瓦器				
		江戸時代末～ 近代		施釉陶器、磁器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-12

平安京右京七条一坊九町跡

発行日 2006年4月28日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961